

助成活動実績報告書

企画名	第18回あかいわエコメッセ
団体名	あかいわエコメッセ

① 活動の目的について

・おしどりマコ・ケンさんの講演会

よしもとクリエイティブエージェンシー所属の夫婦漫才師でありながら、原発事故後東京電力の記者会見、各種省庁、地方自治体の会見などを取材し、また現地にも頻繁に出かけて取材を重ね、その模様を様々な媒体で公開しています。

原発問題を二人の掛け合いで、わかりやすく、権力や権威に対する痛烈な批判を交え楽しく話していただきました。

・三田茂医師

パネラーとして昨年も講演をお願いした三田先生に、医療分野の現状についてマスコミでは報道されない事実が語られました。三田先生とマコ・ケンさんは以前から親しくされていて、マコさんと三田先生の共著で、論文も出されているそうです。

・避難者

千葉県からの母子避難者であるAさんからは、福島県外でも汚染の高い都県からの移住者が抱えている深刻な問題について、胸を締め付けられるような苦勞のかずかずについて語られました。

政府や御用学者に牛耳られている日本のマスコミは、現実の困難や放射能による体調異常、心臓発作による突然死が年間5万人だったのが、すでに7万人に上っている事実、子供の甲状腺がんが100人を超えている事実など、私たち国民はマスコミからは知ることができません。4年後のオリンピックまでに国はフクシマ原発事故を無かったことにしたい！という意図が丸見えです。一人でも多くの市民に実際の現場の様子を知ってほしいと願っています。

② 内容について

・2016年8月20日（土）21日（日） 会場 赤坂健康管理センター（ホール）

・広川隆一さん写真パネル展（無料）

チェルノブイリから30年、福島原発事故から5年～人々に何が起きたか～

・おしどりマコ・ケンさんの講演会

三田茂医師、母子避難者によるパネルディスカッション

・環境チェック 大気汚染の様子を松葉を使って顕微鏡で気孔を見てみよう！

・地産地消 米粉パン、みそ、ヒシオ、ブドウ、有精卵、有機野菜、花苗など地元農産加工品抽選会でプレゼント

・参加者は延べ180人

・夏ボラの中学生延べ8人参加

・広報手段 チラシ作成、メディアへの告知、市の広報、インターネット

③ この活動によって達成された成果

- ・市内にとどまらず、県外からも参加者があり、会場が一杯になりました。
講師の知名度によるものもあったと思いますが、原発事故に対する不安、政治に対する不信感などの高さを感じました。
- ・夏ボラの中学生たちに、広河さんの写真パネルの説明を入場者に説明してもらったら、保育園児から年配の人までみごとに、写真を食い入るように見ていました。
これにはスタッフ全員驚きました。彼らのレポートを読むと「知らなかったことを知ることができた興奮」が伝わってきました。来年も夏ボラに参加したいとの声もありました。
- ・18年目を迎える貴重な環境企画展となりました。市と教育委員会の後援により広く広報ができることで、これからも多くの人達に参加してもらえものにしていきたいと思っています。

④ 今後の計画・展望について

- ・来年は19回を迎えます。引き続き地域の皆さんのご協力、おかやま環境ネットワークからの助成金により貴重な企画を行ってまいります。
- ・環境問題としては、究極の環境・人権問題である「戦争」についても考えていきたいと思っています。沖縄のやんばるの森を伐採することで、危険なヘリパッドを強硬に建設した政府、辺野古の海に巨大なケーソンをばらまいて貴重なサンゴ礁を破壊している米軍に本土の私たちは知らんぷりしていいのでしょうか。
- ・引き続きフクシマの問題として、政府が原発事故による汚染が「アンダーコントロール」されていて、無かったことにしようとしている動きに対して、事実をもって多くの人に暴露していくことは大切なことだと思います。